

やまぐちっ子学力向上だより

第 8 4 号 H29. 3.15
山口県教育庁義務教育課

予測困難な時代に、一人ひとりが未来の創り手となるために

～日々の授業を改善していくことが、児童生徒の学び続けるエネルギーを生み出します～

1 2 月に示された中央教育審議会答申及び2月に示された次期学習指導要領(案)では、「育成を目指す資質・能力」が、三つの柱で示されました。各教科等の学習評価に関しても、その三つの柱を基にして観点の整理が進められているところです。

【育成を目指す資質・能力の三つの柱】 中教審答申資料（H28.12.21）を基に作成



学びを人生や社会
に生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

どのように社会・世界と
関わり、よりよい人生を
送るか

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力等
の育成

何を理解しているか
何ができるか

理解していること・できることを
どう使うか

子どもたちの現在と未来を見据え、これらの資質・能力及びその育成のための学校教育の在り方を、学校関係者だけではなく、保護者や地域住民とも共有し、改善を進めていくことが求められています。

変化が激しく将来の予測が困難な時代にあっても、一人ひとりが自信をもって自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくためには、学び続けることが不可欠です。

とは言え、学び続けることは簡単なことではありません。学ぶためのエネルギーを、常に生み出していかなければなりません。どうすれば、学ぶためのエネルギーを生み出すことができるのでしょうか。

例えば、自分の学びについて、教員や友達など信頼できる他者に価値付けてもらう場が設定されていれば、学ぶためのエネルギーを生み出すことができます。また、他者に頼らなくても、日々の授業において、わかる喜びやできる楽しさを味わう瞬間を多く経験していれば、その経験を源にして学ぶためのエネルギーを自分で生み出すことができます。どちらにしても、学ぶためのエネルギーを生み出す上で、学校における授業が果たす役割は大きいと言えるでしょう。

学力向上の取組の核となるのは、**日々の授業改善**です。

教員は、単元や題材のまとまりの中で、児童生徒が「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）を明確にしながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていくことが重要です。特に、「どのように学ぶか」という学びの過程については、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各学校における授業改善の取組をさらに活性化していくことが求められます。（「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善については、県教委作成『授業づくりと評価の手引き【改訂版】』も参考になります。）

教員による授業改善の取組は、児童生徒の学習力を向上させ、学び続けるエネルギーを生み出すことにつながります。全ての教員が、全ての児童生徒の成長に責任を負う大人としての自覚をもち、授業改善を核とした学力向上への取組を一層推進していきましょう。

これから始まる学年末・学年初め休業についても、学び続けるエネルギーを生み出すという観点から、見直しをすることも必要です。いくつか提案してみます。

【学年末・学年初め休業を充実したものにするために～学び続けるエネルギーを生み出す観点から】

① 家庭学習について全校で調整を図りましょう

課題が多すぎたり難しすぎたりすると、児童生徒の学ぶエネルギーは生まれません。教員同士で課題の内容や量、難易度などについて情報交換をし、児童生徒にとって適切な課題となるように、全体で調整を図りましょう。

② 個に応じた働きかけを工夫しましょう

長期休業になると、児童生徒は、自分一人の力で課題に取り組むこととなります。課題を出す場合には、これだけはやってほしい！という「共通課題」と、児童生徒の学力の状況に応じて量や難易度等を調整した「個別課題」（2～3パターンで十分）の2種類を準備することをおすすめします。必要に応じて、学校等での補充学習も実施しましょう。

③ 計画的に家庭学習に取り組むことができるように働きかけましょう

長期休業の時期は、児童生徒が、計画的な家庭学習の習慣を身に付ける絶好の機会ととらえることができます。例えば、スケジュールを書き込むことができるワークシートを準備し、自分なりの家庭学習を組み立てていくことができるように、助言しましょう。



すべての児童生徒が円滑なスタートを切ることができるように、各学校において、万全の準備を整えて新年度を迎えましょう。